

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

静岡県

●地域における現状・課題

県内中学校の生徒数は、平成元年度に16万6千人であったが、徐々に減少が続き、令和5年度には9万5千人となった。また、地域スポーツクラブへの所属状況は、平成20年度の男子12.1%・女子7.1%に対し、令和5年度は男子32.8%・女子22.3%となっている。協議会の設置状況については、政令市を除く県内33市町のうち、既に23市町において設置済みであり、未設置の10市町についても、6市町では既に事務局内での検討を開始している。

こうした現状から、学校部活動を持続可能なものとするため、各学校における部活動の精選や合同部活動の促進等の工夫がなされ、部活動指導員を活用した教員の時間的負担軽減を目指した取組が進んでおり、地域クラブへの所属が増える等、地域移行も徐々に進んでいる状況である。

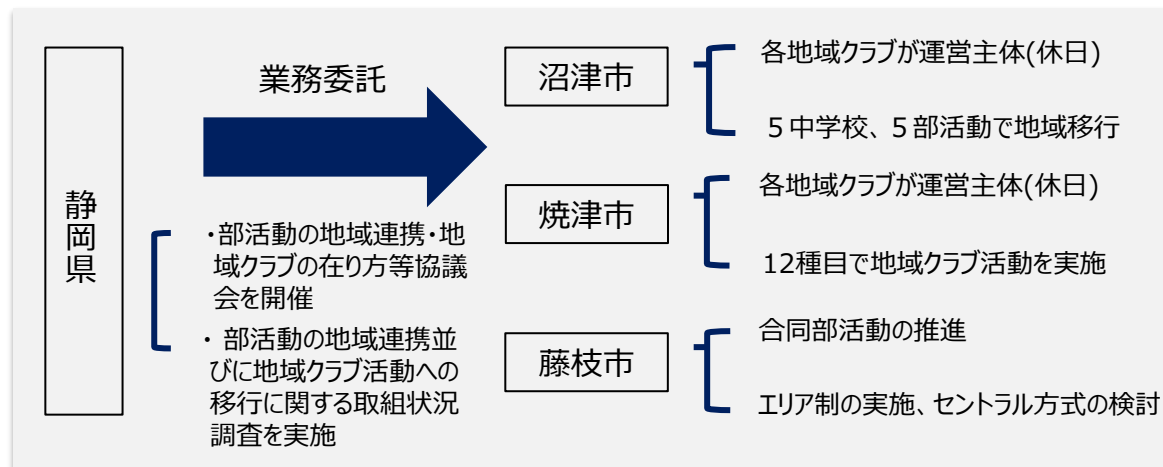
●取組事項の概要

県内の全35市町を対象とした、県教育委員会主催による「部活動の地域連携・地域クラブの在り方等協議会」を年2回開催し、県方針についての共通理解、実践研究に取り組む3市の取組内容及び成果と課題に関する情報共有等を行った。また、各種研修会等において、地域クラブへの指導者派遣及び県人材バンクへの登録について協力依頼を行った。

●取組の成果、特に工夫した点等

同協議会の開催にあたり、政令市を除く33市町を対象とした「部活動の地域連携並びに地域クラブ活動への移行に関する取組状況調査」を実施し、県内各市町における進捗状況や課題等を把握するとともに、各市町間での情報共有を図った。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：スポーツ団体運営・実施型
- (2) 運営主体：静岡ブルーレヴズ
- (3) 種目：ラグビー
- (4) 指導者の主な属性：クラブチーム関係者（プロチーム含む）
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：12回
- (6) 主な活動場所：学校
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：66,000円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者800円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

静岡県沼津市

●地域における現状・課題

- ・少子化の進行により、児童生徒数は昭和57年のピーク時と比べて約1/3まで落ち込み、この傾向は今後も続くことが見込まれている。
- ・市立中学校18校のうち約1/3が全学年単学級化するなど、学校の小規模化も進み、廃部が相次ぐことで、生徒のニーズを満たせない状況が生まれている。
- ・生徒数の減とあわせて教員数も減少し、部活動で複数顧問をつけられないケースが生じるなど、教員多忙化の主要因となっている。

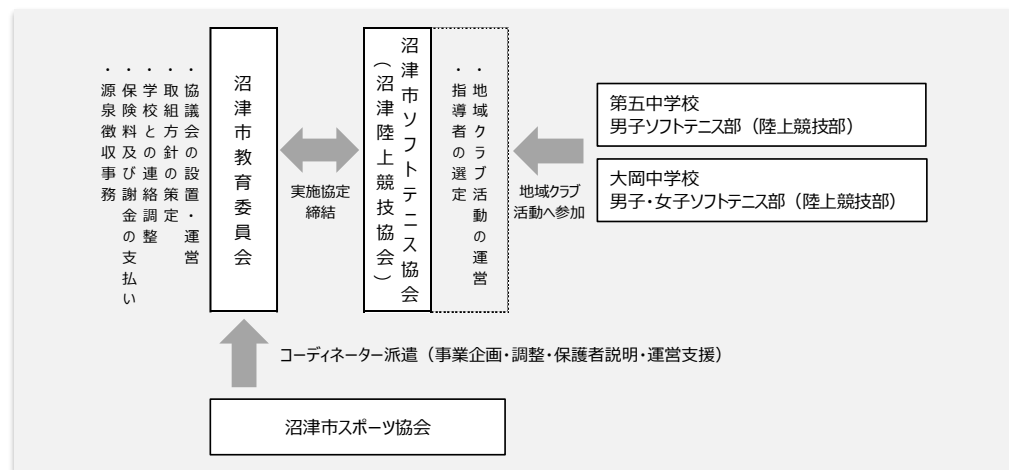
●取組事項の概要

- ・有識者や関係者で構成する「沼津市部活動改革検討協議会」を設置し、5回の会議を経て、「沼津市部活動地域移行取組方針」を策定。
- ・沼津市スポーツ協会と連携して総括コーディネーター2人、コーディネーター2人を配置。
- ・モデル的な取組みとなる休日活動の実証事業をバレーボール、サッカー、ソフトテニス、陸上競技、卓球の5種目で各競技団体と連携して実践。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・実証事業を通して、課題の洗い出しや整理が進むとともに、学校や各競技団体など関係者の理解が深まった。
- ・沼津市スポーツ協会からコーディネーターの派遣を受け実施したことで、地域移行に関する情報や意識の共有化が図られた。
- ・各種目や学校・地域によって環境は大きく異なっており、実情に応じた選択肢を複数用意し、柔軟に対応することの必要性を確認した。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- （1）運営類型：地域スポーツ団体等運営型（体育・スポーツ協会運営型）
- （2）運営主体：沼津市ソフトテニス協会
- （3）種目：ソフトテニス
- （4）指導者の主な属性：会社員、教員、協会役員、クラブ指導者
- （5）1か月あたりの平均的な活動回数：2回
- （6）主な活動場所：第五中学校テニスコート
- （7）主な移動手段：徒歩、保護者送迎
- （6）1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年（指導者謝金は市負担）
- （7）1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1,850円（保険料は市負担）

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

静岡県焼津市

●地域における現状・課題

少子化に伴って学校部活動の数が減少した。また、部活動顧問となる教員の多忙化や生徒・保護者のニーズの多様化等により、将来的に現在のままの形で学校部活動を続けていくのは難しい状況にあった。焼津市ではこのような現状や課題を踏まえ、持続可能な中学校部活動を目指すために、平成30年度に「焼津市部活動ガイドライン」の策定をし、改訂を重ねながら、部活動が教育活動の一環として適切に実施されるように支援してきた。さらに、令和2年9月の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」を受け、休日の学校部活動を段階的に地域部活動へ移行することを念頭に、令和3年度より検討を進めている。

●取組事項の概要

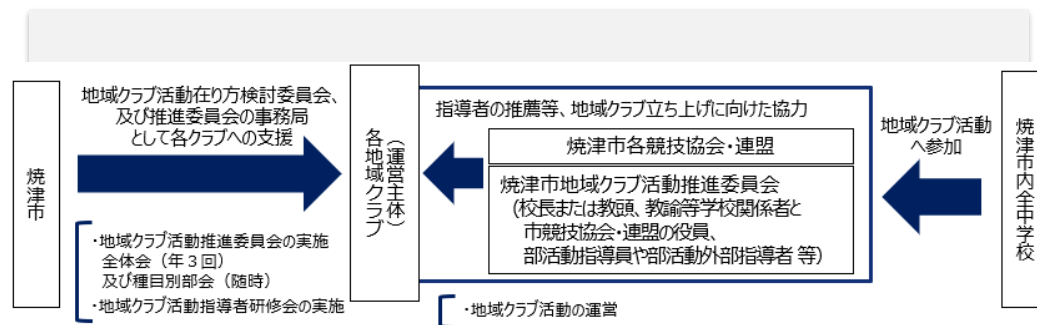
運営主体：剣道焼津館、やいづ相撲クラブ レクスポ焼津 等各地域クラブ
活動場所：大井川中学校武道場、市営相撲場、焼津中学校卓球場、焼津小川港 等
指導者：地域指導者（競技協会・連盟役員や部活動外部指導者等）
移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎 等

責任主体：各地域クラブ
活動種目：柔道、剣道、相撲、ニュースポーツ、海洋体験、陸上競技、水泳、ソフトテニス、卓球、トランポリン、レスリング
会費等：年額3,000円～42,000円
保険：800円～2,000円（スポーツ安全保険、民間保険会社の保険）

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・地域クラブ活動在り方検討委員会を年4回実施、地域クラブ活動推進委員会を年4回実施し、地域移行に関する体制整備や地域クラブ開設に向けた準備を行った。
- ・令和5年度は運動系地域クラブ活動を6種目を追加し、11種目で実施。令和6年度には1種目追加し、12種目で実施する。
（R4-柔道、剣道、相撲、ニュースポーツ、海洋体験 R5追加-陸上、ソフトテニス、卓球、水泳、レスリング、トランポリン R6追加-男子バレー）

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- （1）運営類型：市区町村運営型（任意団体設立型）
- （2）運営主体：剣道焼津館、やいづ相撲クラブ レクスポ焼津 等各地域クラブ
- （3）種目：柔道、剣道、相撲、ニュースポーツ、海洋体験、陸上競技、水泳、ソフトテニス、卓球、トランポリン、レスリング
- （4）指導者の主な属性：競技協会・連盟役員や部活動外部指導者等
- （5）1か月あたりの平均的な活動回数：2回～12回（4回の種目が多い）
- （6）主な活動場所：中学校グラウンド、体育館、卓球場、武道場、公共施設
- （7）主な移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎 等
- （6）1人あたりの参加会費等（年額）：3,000～42,000円/年
- （7）1人あたりの保険料：生徒800～2,000円/指導者1,200～2,000円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

静岡県藤枝市

●地域における現状・課題

- ・市内中学校に19の部活動が活動しているが、生徒数の減少に加え68%しか所属しておらず、一部の部活動では人数が足りず十分な活動が出来ていない。
- ・小学生は、中学校でやりたい活動として、部活動がない活動をやりたい子どもが多く存在する。
- ・教職員は、休日の部活動を負担に感じている割合が74%で、平日の業務に影響が出る可能性がある。

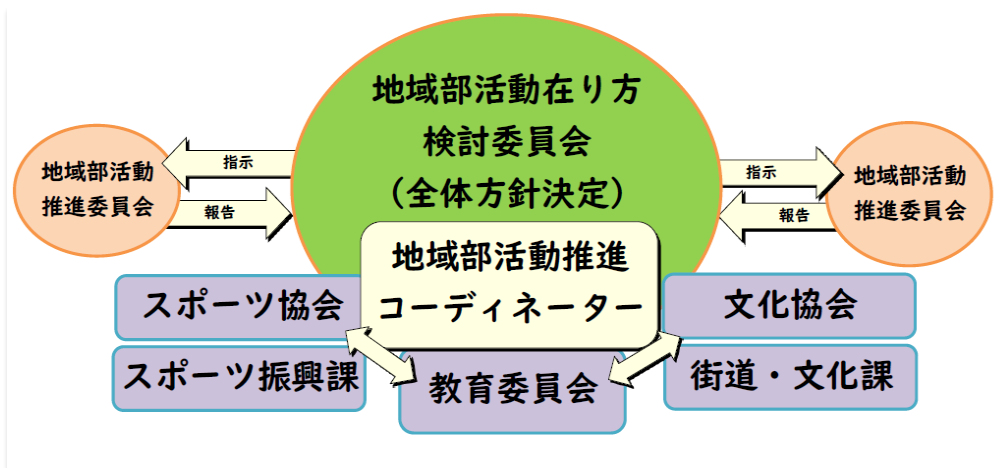
●取組事項の概要

- ・地域部活動在り方検討委員会、地域部活動推進委員会の開催
- ・指導者説明会の開催
- ・野球部でエリア制を開始した。併せて、他の4活動（男子バレー、女子サッカー、柔道、ソフトボール）の方向性を決定

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・既存のクラブチームとの話し合いを十分に行い、部活動とのすみわけや課題を整理することで、今後の方針を決定することができた。
- ・事務局を設立することなく地域移行を進めることで、市からの補助金に頼らない継続できる仕組みを進めている。
- ・他の部活動も野球部と同じエリアで活動ができるようにすることで、行事が重なることによる活動日の減少を抑えることとした。

●運営体制図



- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）※エリア制
- (2) 運営主体：市区町村
- (3) 種目：野球
- (4) 指導者の主な属性：部活動指導員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：平日週3回、休日どちらか半日
- (6) 主な活動場所：学校施設
- (7) 主な移動手段：徒歩又は自転車
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：24,000円程度/年
- (9) 1人あたりの保険料：生徒460円／指導者なし

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

静岡県裾野市

●地域における現状・課題

裾野市においても、令和3年度から「部活動の在り方検討委員会」を設置し、国・県の部活動改革の動向を共有しつつ、裾野市の中学校や市内のスポーツ・文化芸術活動の現状を把握しながら、検討を進めている段階である。他方、学校の働き方改革は喫緊の課題であり、部活動をめぐる様々な関係者がそれぞれの立場で協力しながら、段階を踏んで着実に実施することにより、部活動における教師の負担軽減に加え、部活動の指導等に意欲を有する地域人材の協力を得て、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術活動の実現を図るために検討を進めたい。

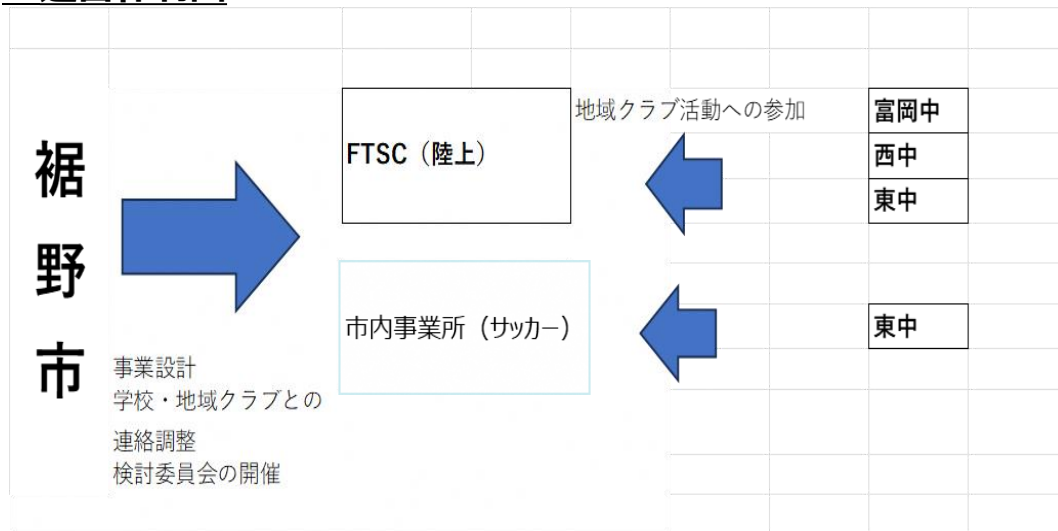
●取組事項の概要

広域的な活動を行う総括コーディネーターを配置し、関係団体、関係委員会、市との連絡調整・指導助言を行う。各種目の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

●取組の成果、特に工夫した点等

参加した中学生32人を対象としたアンケート結果、回答者の約83%がとても満足、満足と回答した。その理由として、質の高い充実した練習ができたから、自分のできていないところや伸ばしたいところが見つかった直すことができたからという意見があった。また、教員側の意見として、専門的に教えることができないので、この練習を近くで見ることによってとても参考になった。5回の合同練習会であったが、顧問の教員は順番性として負担軽減になった。また、オリンピックコーチも務められた東海大学名誉教授 宮川千秋先生を招聘し、トップクラスの練習方法を学んだことによって、生徒の感想の中に、速い人の走り方を見たり、プロの選手を支えた人にコーチをしてもらったからとても満足だったというものがあり満足度の上昇につながったとみられる。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：地域スポーツ団体等運営型（民間スポーツ事業者運営型）
- (2) 運営主体：裾野陸上クラブ
- (3) 種目：陸上競技
- (4) 指導者の主な属性：クラブ指導者
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月1回程度
- (6) 主な活動場所：裾野市陸上競技場
- (7) 主な移動手段：保護者の送迎
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒0円／指導者1850円